

梅ノ木の家

設計者自身とその家族のための家である。

敷地は、北側に地域の集会所があり以前から続くコミュニティに隣接する一方、周辺は古い集落に少しずつ宅地開発や世代交代の兆しが窺える場所であった。この地域における公共性の分布や、変化しつつある新旧のコミュニティの分布に対し、生活空間を確保しながらまちの環境や風景をダイレクトに感じられる場所、そして自立的でありながら変化を受容し、まちを観測する拠点のような場所が相応しいと考えた。

そこで、機能を納めた小部屋を敷地の縁に寄せて配置し、広く残した中央の空地を共有する生活空間とした。そこに、小さく分けた屋根を必要な場所にふわっと浮かせ、その内外に家具や植物が散らばり生活をつくる。それは箱に窓を穿つとは逆の、枝葉を集めて巣を作るようなプロセスである。小部屋同士の隙間からは庭木が見え、その奥には通りや街並みが見え、少し遠くに小山が見える。屋根の隙間からは隣家の屋根が見え、空が見える。手元にある物や家具などの近景から、街並みや空といった遠景まで無数の奥行きが様々な方向に広がり、響きあう。柔らかく守られながらどこまでも広がる家である。

幼少期を思い返すと、実家を座標の原点として東西南北を認識し、世界を知覚していた。住む場所を決めることは、世界の座標の原点を設定することであり、その生活は原点から世界を眺める営みである。この家はある地域の片隅にありながらも、住人にとって原点であり、ここから世界がどこまでも広がっていると感じられる場所である。まちと繋がった生活空間は、まちの風景、周辺の人びとの活動、季節や空模様に影響を受け変わりゆく。それを受け入れ、まちと共鳴し、生きていく。



キッチンからリビングを見る。小部屋、壁、屋根の隙間から植栽、隣家、空が見え、近景から遠景まで様々な奥行きが広がる。



リビングからキッチンを見る。内外に家具や水場が配置され、生活が広がる。

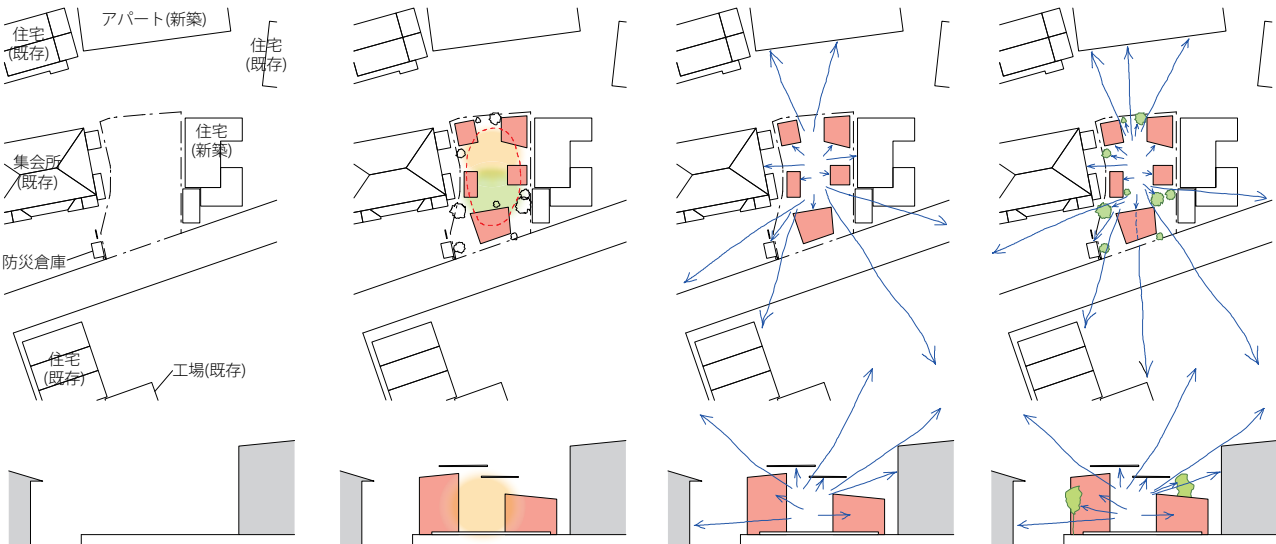


リビングを見る。様々な方向に抜けながらも、周囲からは柔らかく守られた空間となっている。敷地は前面道路にむかって緩やかに傾斜し、アトリエの小部屋越しに前面道路の様子が窺える。



南側俯瞰。古い家屋と新築住宅が混在する集落。周辺には田畑や小山が見える。

〈柔らかく守られながらどこまでも広がる家〉

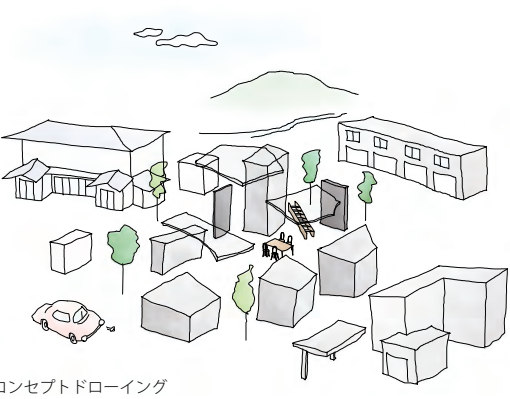
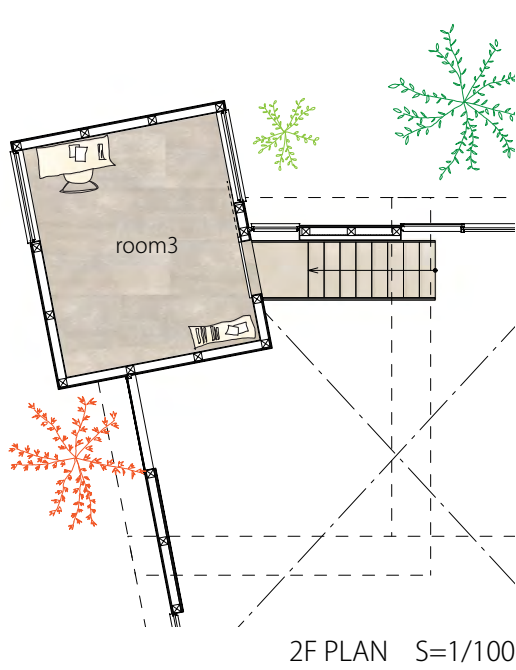


北側は集会所、東側は新築アパートのアプローチ空地、南側は新築住宅、西側は道路に隣接する。パブリックな空間とプライベートな空間、以前から続くコミュニティと新しいコミュニティが混ざり合っている。

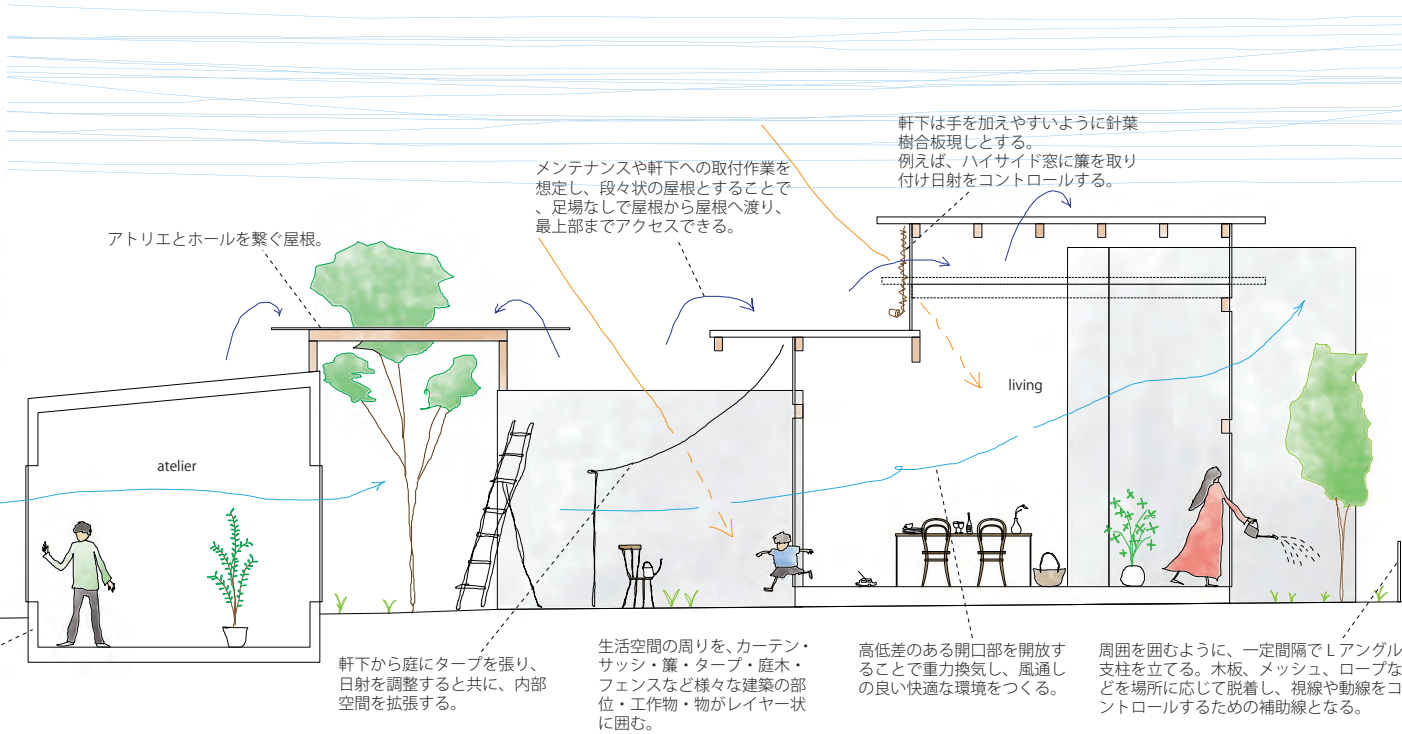
機能を納めた小部屋を、敷地の縁にできるだけ寄せては置き、残った中央の空地を主な生活領域とする。そのうち半分を室内の生活、もう半分为外の生活の場とする。

小部屋や屋根の隙間からまちの風景や空が垣間見える。視線は小部屋にぶつかったり、屋根にぶつかったり、隣家にぶつかったり、様々な奥行をもって抜けていく。

さらに、家具や物、植物などが散らばり、あらゆる方向に無数の奥行をもつ空間となる。生活空間を建築要素や物、植物でふわっと覆い、それを近隣の風景が覆い、しかしどこまでも広がっていくような、世界を観測する拠点となる。



コンセプトドローイング



道路から約400mm掘り下げたアトリエ。建物のボリュームを抑えつつ、内外部の感とコミュニケーションを適度な距離感とコミュニケーションを生む。

アトリエとホールを繋ぐ屋根。

メンテナンスや軒下への取付作業を想定し、段々状の屋根とすることで、足場なしで屋根から屋根へ渡り、最上部までアクセスできる。

軒下は手を加えやすいように針葉樹合板現しとする。例えば、ハイサイド窓に簾を取り付け日射をコントロールする。

軒下から庭にタープを張り、日射を調整すると共に、内部空間を拡張する。

生活空間の周りを、カーテン・サッシ・簾・タープ・庭木・フェンスなど様々な建築の部位・工作物・物がレイヤー状に囲む。

高低差のある開口部を開放することで重力換気し、風通しの良い快適な環境をつくる。

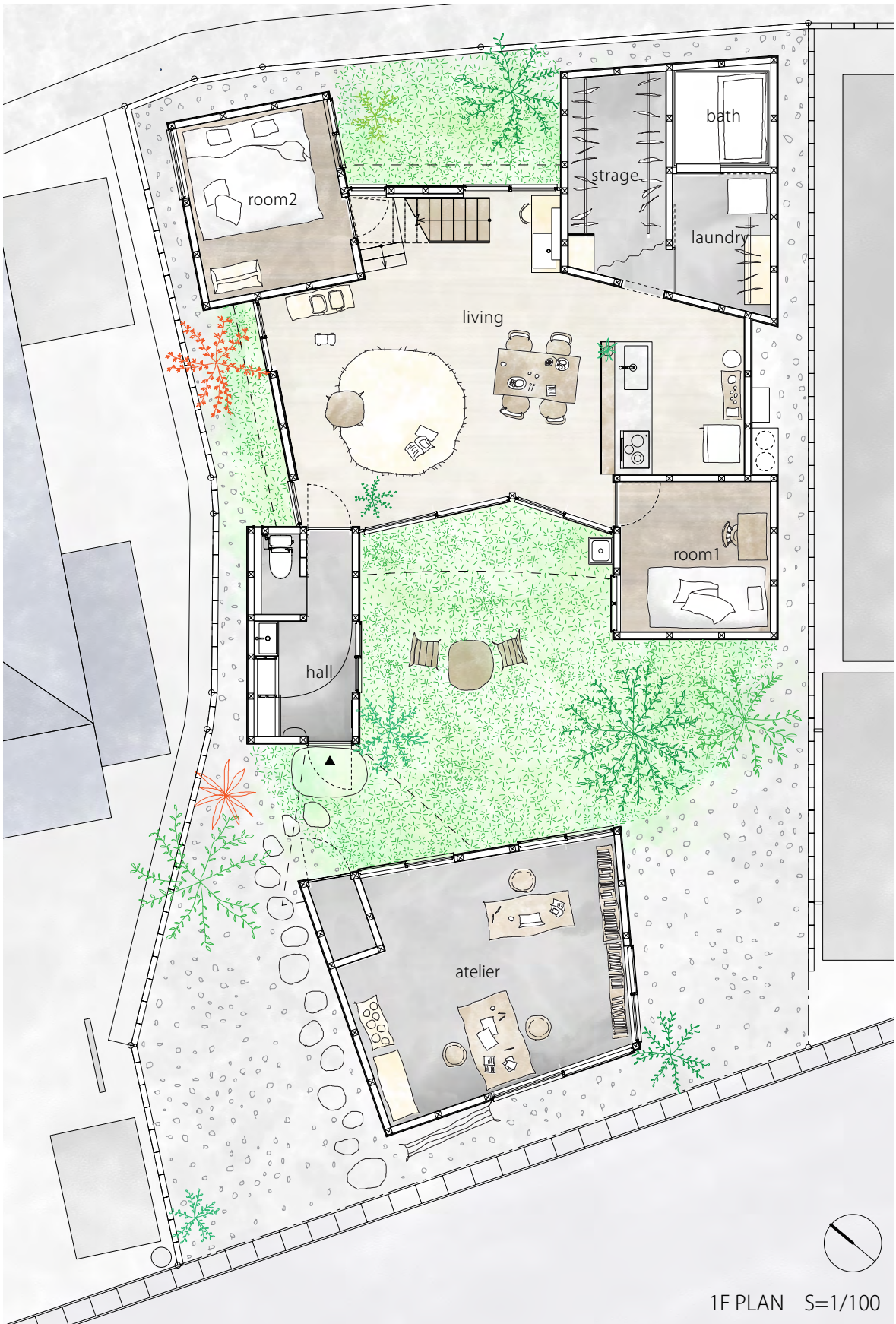
周囲を囲むように、一定間隔でLアングル支柱を立てる。木板、メッシュ、ロープなどを場所に応じて脱着し、視線や動線をコントロールするための補助線となる。



ルーム2を見る。朝日が差し込み、地面から600mm掘り下げた空間は寝室として使用する。

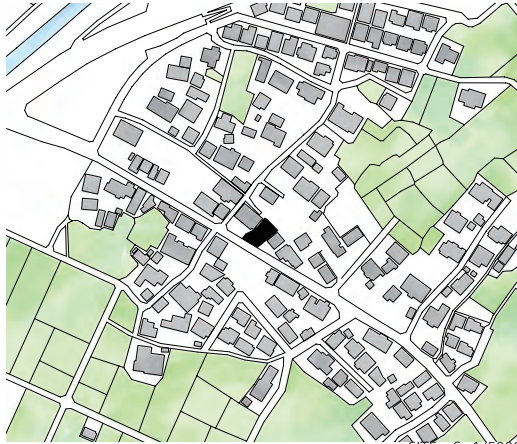


アトリエを見る。大きな開口を設け、まちに開かれた構えとする。将来の収納スペースとして天井高を確保しつつ、ヴォリュームを抑えるために道路レベルから400mm掘り下げる。



1F PLAN S=1/100

〈新旧のコミュニティの中に建つ〉
敷地周辺は、複雑な細道に住宅がひしめく集落と、そこを抜けた先には田畑が広がる地域である。市内の新しく開発されたエリアでは、子育て世帯の需要による住宅開発が散見され、その需要の広がりにより、この古い集落も少しずつ世代交代の兆しがある。
この計画をはじめた初期は、古い住宅が並ぶ落ち着いたまちであったが、計画を進める中で、敷地後方にアパートが建設が始まり、隣家の建て替えが始まった。
一方、敷地の北側には地域の集会所が隣接し、学校帰りの小学生がお地蔵さんに手を合わせる姿や、近所のおじちゃんおばあちゃんがお茶をしながら話をする姿が見られた。
以前から続く公共的なコミュニケーションの場と、変わりゆくまちの風景の間で、この場所ですることや生活の拠点の在り方を考えている。



概要	
所在地	愛知県日進市
主要用途	事務所併用住宅
竣工年月	2024年2月
構造構法	木造在来工法
階数	地上2階
軒高	5.195m
最高高さ	5.093m
敷地面積	212.78㎡
建築面積	98.60㎡
延床面積	105.47㎡
1階	94.89㎡
2階	10.58㎡

SITE S=1/5000